

2025年3月期 決算説明会 (2024年4月~2025年3月)

2025年5月16日

東洋合成工業株式会社 (証券コード: 4970)

代表取締役社長 木村 有仁

1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

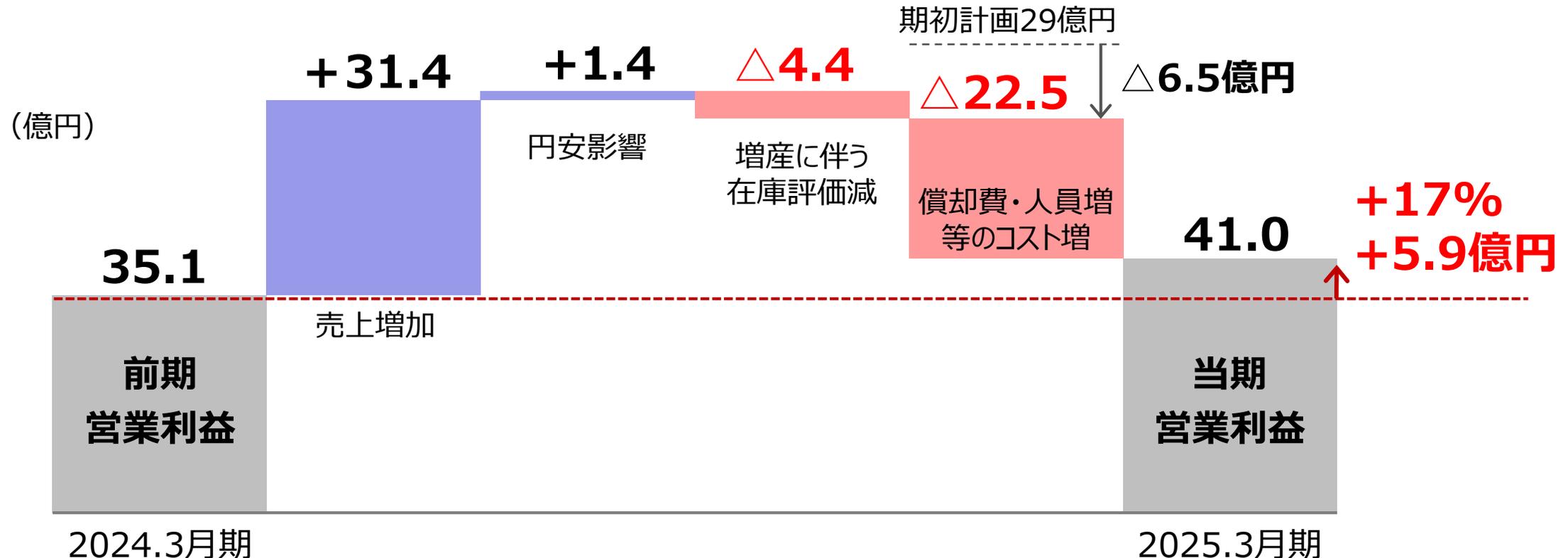
4. サステナビリティ活動

- 売上高は、生成AI用途の需要拡大により、先端半導体向け材料の販売が増加し、386.6億円、前期比+21%の大幅増収。
- 営業利益は、新設備や人員増強の固定費増を売上増加で吸収し、41億円、同+17%の増益。
- 業績予想比では、売上高は予想値通り。営業利益は増加コストの抑制に努め、+14%の超過。
- 純利益は、賃上げ促進税制と設備投資促進税制などの法人税特別控除により+31%の超過達成。

	2024.3月期	2025.3月期	前期比		2025.3月期	業績予想比	
	(億円) 実績	実績	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	319.5	386.6	+67.0	+21%	382.0	+4.6	+1%
営業利益	35.1	41.0	+5.9	+17%	36.0	+5.0	+14%
経常利益	33.9	39.9	+6.0	+18%	35.0	+4.9	+14%
純利益	23.9	32.7	+8.8	+37%	25.0	+7.7	+31%
1株当たり純利益	301円	413円					
期中平均為替レート	¥144/\$	¥153/\$					

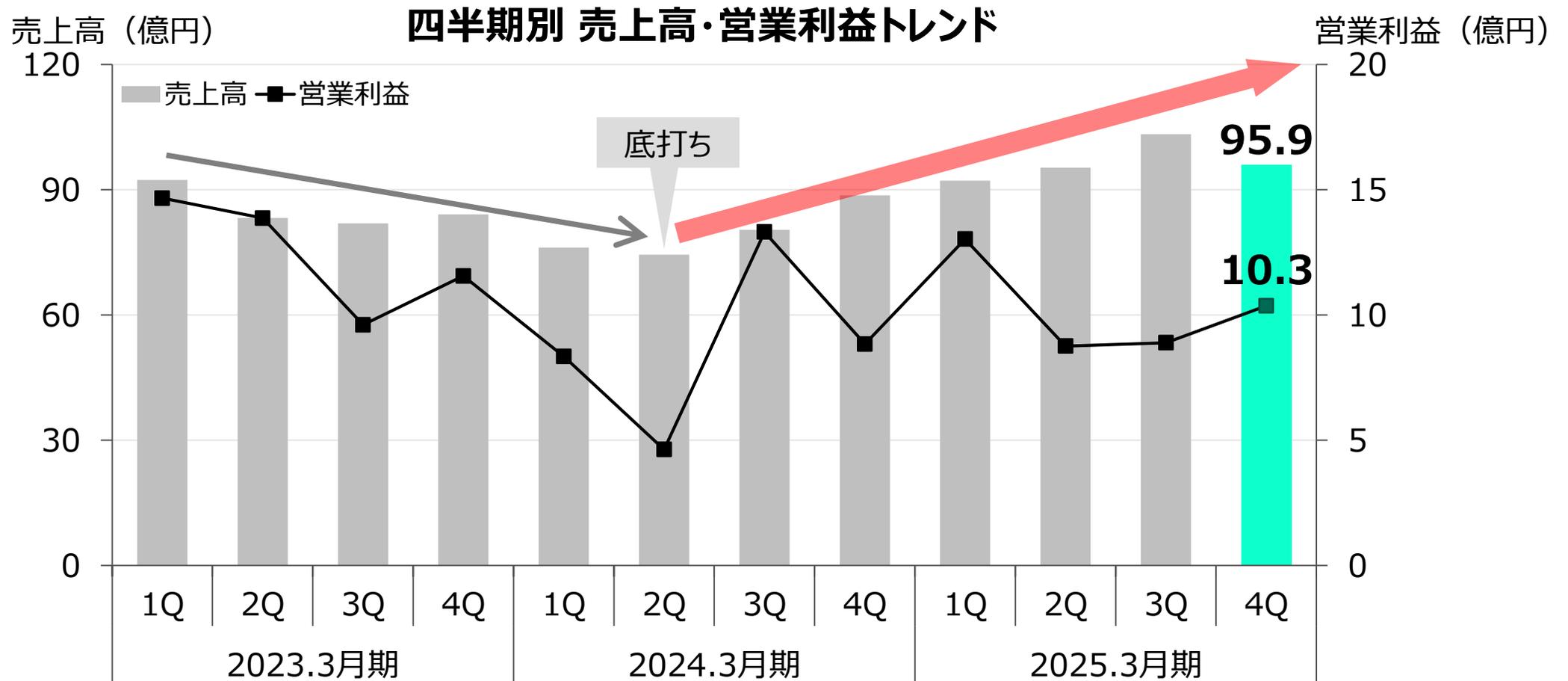
営業利益 前期比の増減要因

- 売上増加により31.4億円の増益効果、増産に伴い原価は低減。
- 今後の供給拡大に向けた新設備の完成や人員増強により固定費は増加。
- しかしながら、増加コストの抑制に努め、期初計画29億円を22.5億円に圧縮。
- これらの費用増を吸収し、営業利益は41億円、前期比+17%の増益。

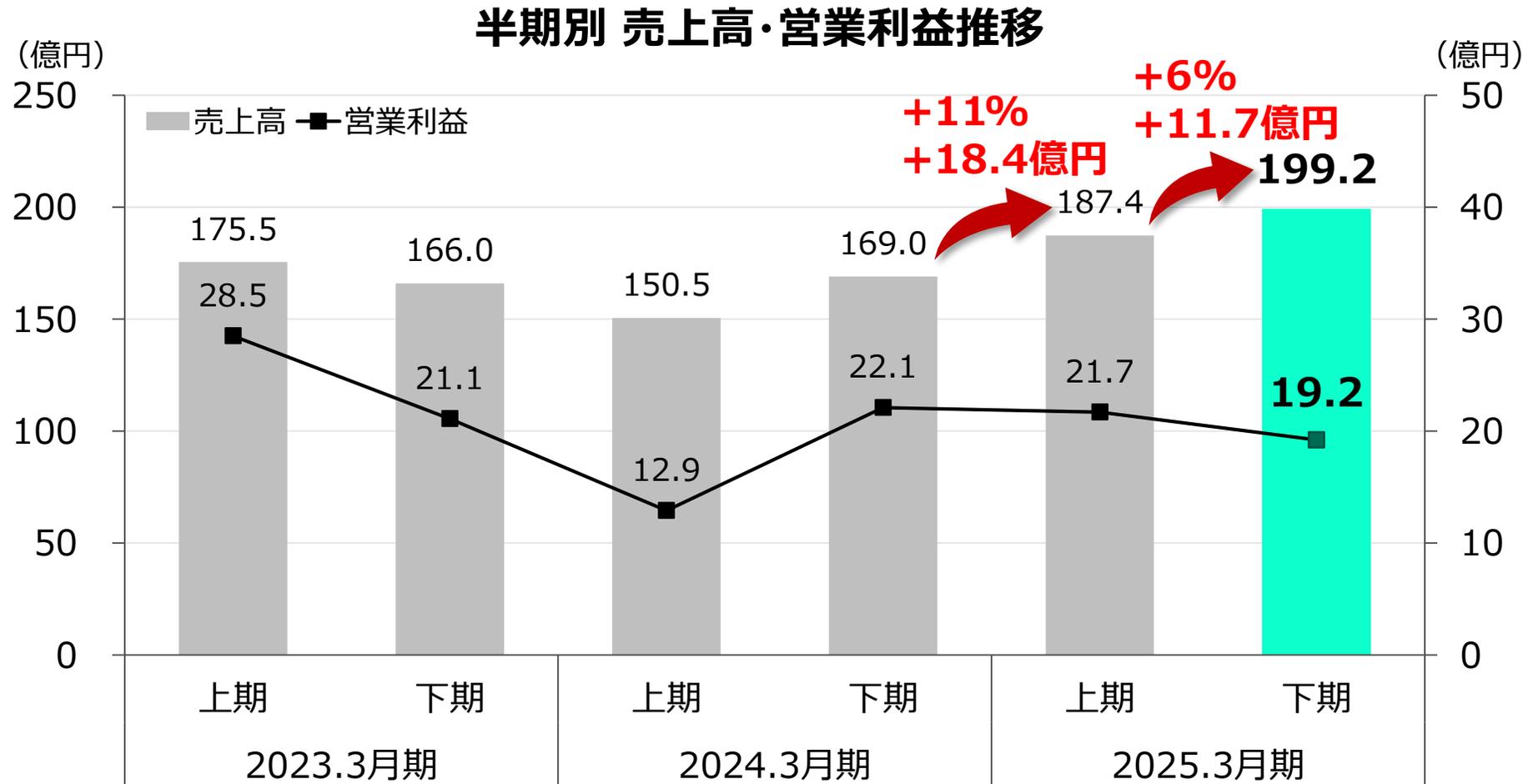


四半期別 売上高・営業利益トレンド

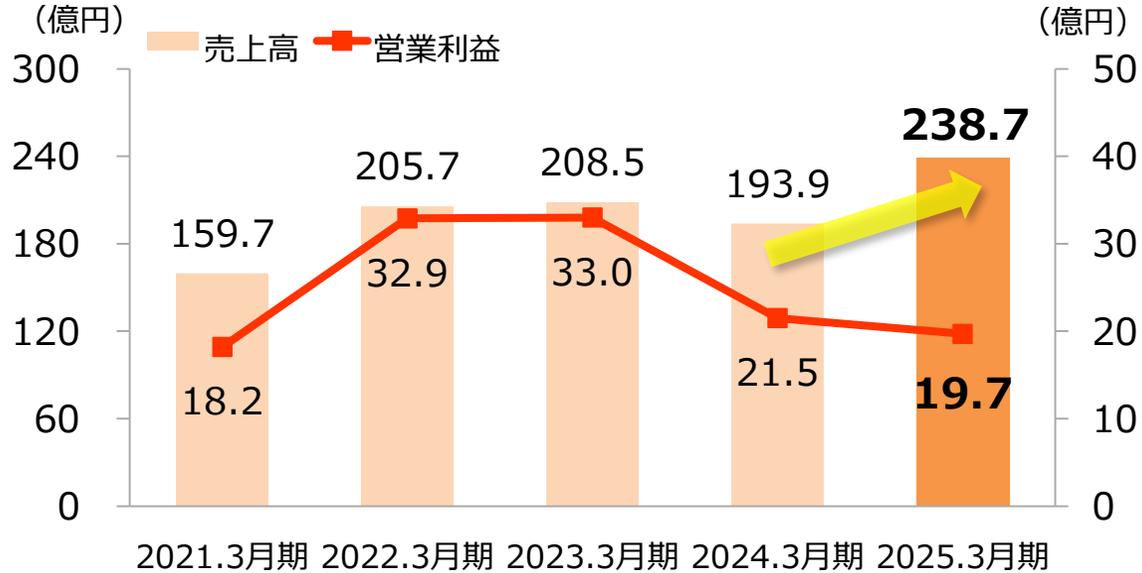
- 売上高は24年3月期 2Qを底に反転し、増加傾向。
- 売上増加により、新設備の完成に伴う固定費増を吸収し、利益を確保。



- 前年下期から、売上増加が継続し、**上期比で6%の増加。**
- 新設備の完成に伴うコストを吸収しながら、利益水準を維持。

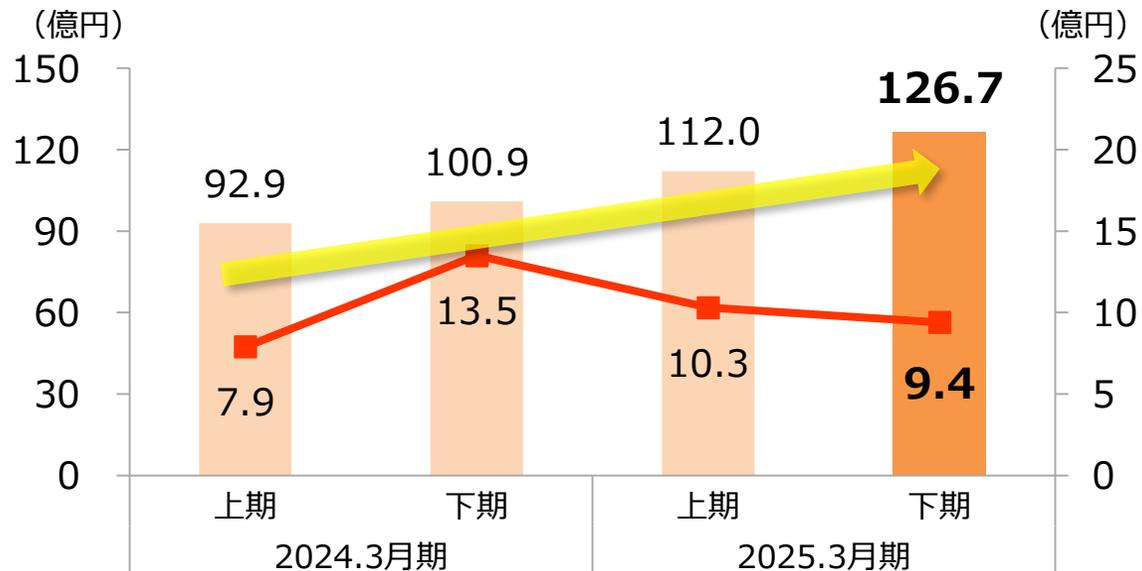


売上高・営業利益



通期売上高：238.7億円（前期比+23%）

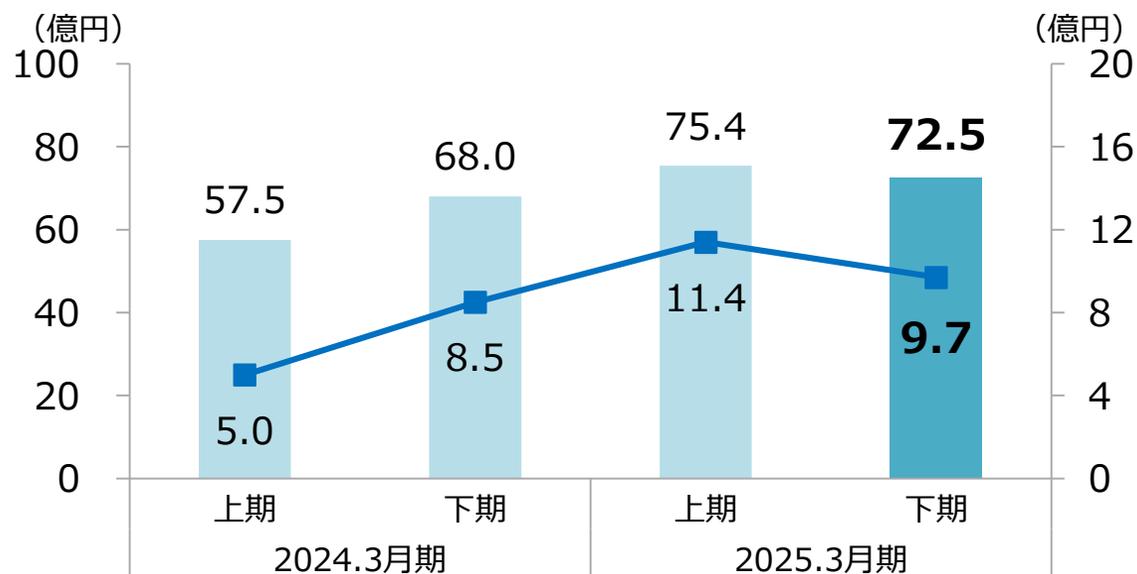
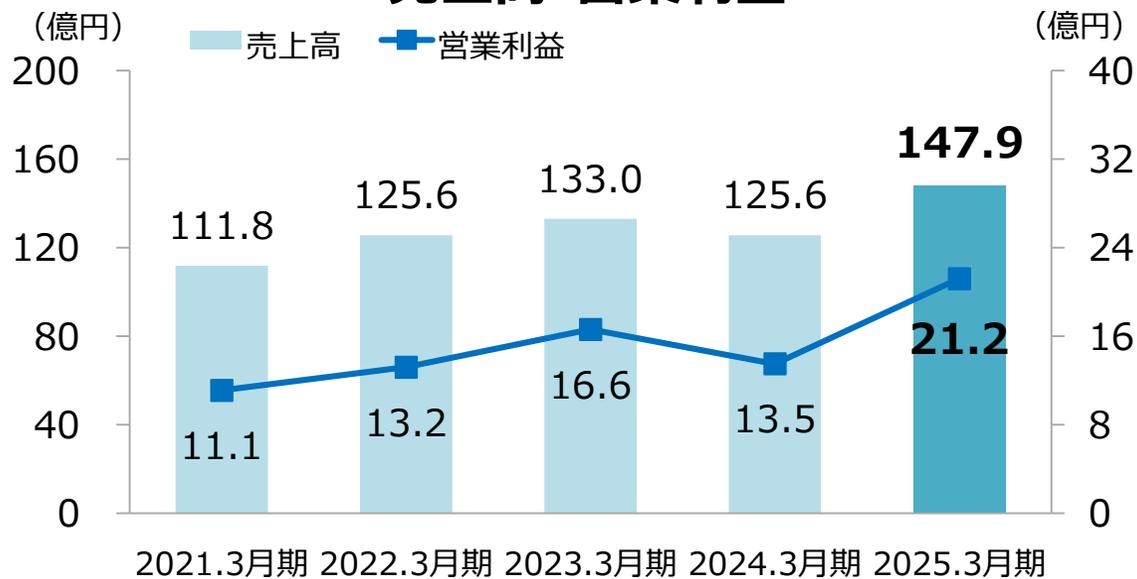
- 通期、半期ともに過去最高を更新。
- 半導体向け材料は、生成AI用途の需要拡大により、先端フォトリソト向け材料の売上増加。
- ディスプレイ向け材料は、中国を中心にパネル生産が一定レベルに保たれ、販売も堅調。



通期営業利益：19.7億円（前期比△8%）

- 先端分野の生産・供給力拡大に向けた新規大型設備の完成により固定費が増加。増産により利益水準を維持。
- 今後は新設備を活用し、最先端品質の安定供給を目指し、投資効果拡大を狙う。

売上高・営業利益



通期売上高：147.9億円（前期比+18%）

- 通期売上高は過去最高を更新。
- 高純度溶剤は半導体・電子部品向けの需要増により売上増加。
- 香料材料関連は、海外販売が好調に推移し、増収。
- タンクターミナル事業は、国内需要は弱いものの、石化再編により、輸入品は増加。タンク契約率は高水準で推移。

通期営業利益：21.2億円（前期比+57%）

- 高純度溶剤の売上増加等により増益。

2025年3月期 損益計算書

- 売上高は前期比67億円（+21%）増収の386.6億円と、過去最高を更新。
- 売上総利益は、売上増加により固定費増を吸収し、粗利率を維持。
- 純利益は、賃上げや設備投資による法人税などの特別控除により前期比+37%の増益。

(億円)	2024.3月期	2025.3月期	増減額	増減率
売上高	319.5	386.6	+67.0	+21%
売上原価	243.5	296.0	+52.5	+22%
売上総利益	76.0	90.5	+14.5	+19%
販売管理費	40.8	49.5	+8.6	+21%
営業利益	35.1	41.0	+5.9	+17%
営業外収益	2.0	2.3	+0.2	+12%
営業外費用	3.2	3.3	+0.1	+4%
経常利益	33.9	39.9	+6.0	+18%
特別損益	△1.2	△1.3	+0.0	
税引前当期純利益	32.7	38.6	+5.9	+18%
法人税等合計	8.7	5.8	△2.8	△33%
当期純利益	23.9	32.7	+8.8	+37%

売上総利益率
23.8%→23.4%

賃上げ促進税制、
地域未来投資促進税制

2025年3月期 キャッシュフロー計算書

- 営業CF：67.9億円 売上拡大により増加する運転資金を改善し、22億円増、前期比+49%。
- 投資CF：119.7億円 中計の大型設備投資の支払が完了。
- 財務CF：51.9億円 設備投資資金の確保。

	2024.3月期	2025.3月期	増減額
営業活動によるCF	45.7	67.9	+22.2
税引前当期純利益	32.7	38.6	+5.9
減価償却費	28.9	37.1	+8.1
売上債権の増減額（+は減少）	△13.1	△1.4	+11.6
棚卸資産の増減額（+は減少）	14.2	△7.1	△21.3
仕入債務の増減額（+は増加）	△9.3	16.6	+26.0
その他	△7.7	△15.8	△8.1
投資活動によるCF	△75.9	△119.7	△43.8
フリー・キャッシュフロー	△30.2	△51.7	△21.5
財務活動によるCF	35.9	51.9	+15.9
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1.8	△0.6	+1.2
現金及び現金同等物の増減	3.9	△0.4	△4.4
現金及び現金同等物の期末残高	36.4	35.9	△0.4

前期比+49%

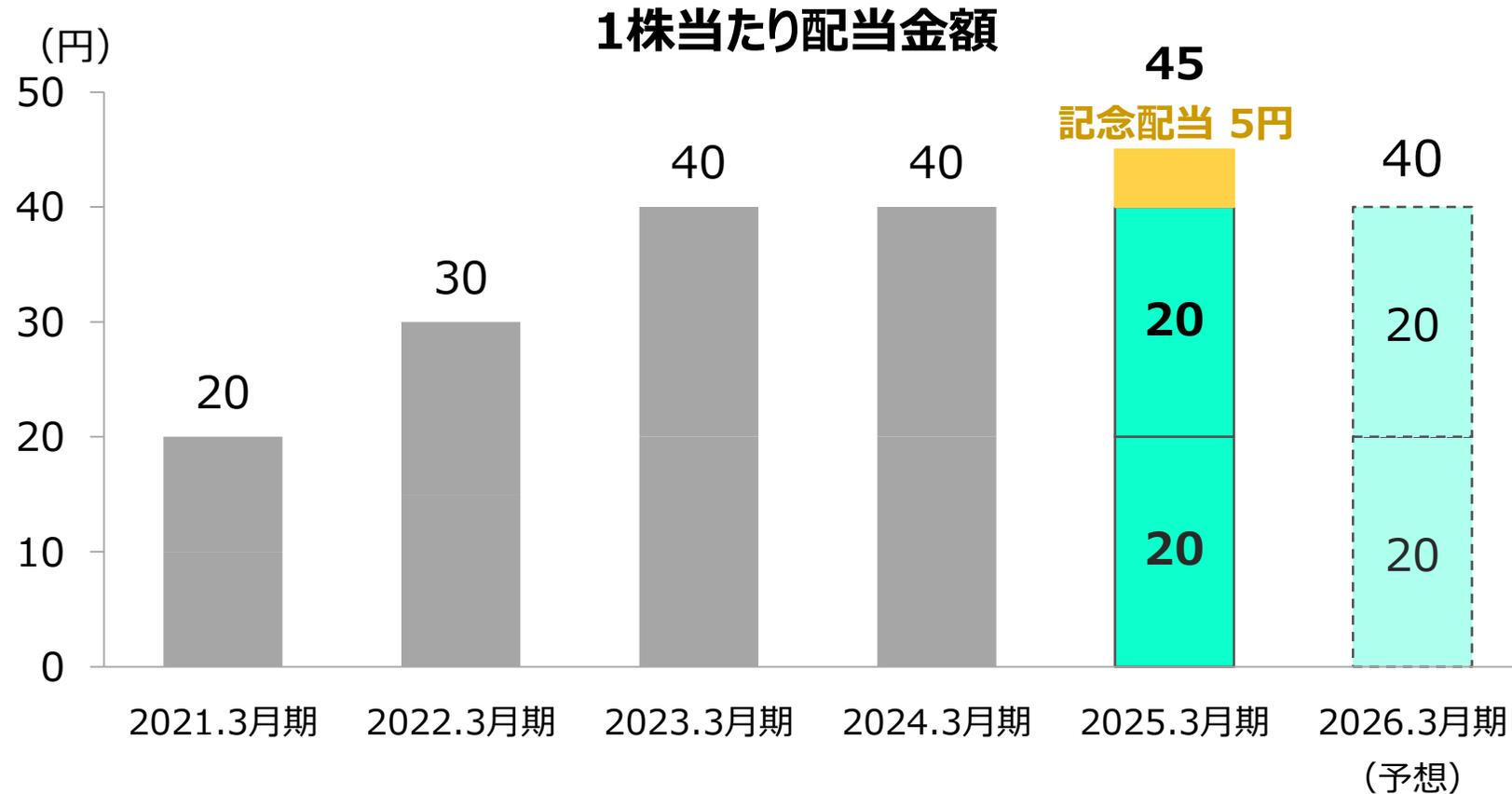
運転資金改善
+16.3億円

2025年3月期 貸借対照表

- 売上拡大により増加する運転資金（=売上債権+棚卸資産-仕入債務）を改善し、△8.1億円。
- 生産能力増強投資により、有形固定資産は+38.3億円、借入金は+57.2億円。
- 純利益の増加により、株主資本は+29.6億円。
- 自己資本比率は37.7%(+1.0pt)。

	2024.3月末	2025.3月末	増減額		2024.3月末	2025.3月末	増減額
流動資産	226.8	240.6	+13.8	負債	376.9	410.3	+33.4
現金預金	36.4	35.9	△0.4	仕入債務	40.0	56.7	+16.6
売上債権	72.2	73.7	+1.4	借入金	220.0	277.3	+57.2
棚卸資産	103.3	110.5	+7.1	その他	116.7	76.2	△40.4
その他	14.7	20.4	+5.7				
固定資産	368.3	417.9	+49.5	純資産	218.2	248.3	+30.0
有形固定資産	338.6	377.0	+38.3	株主資本	216.3	245.9	+29.6
無形固定資産	15.7	25.9	+10.1	その他	1.9	2.3	+0.4
投資・その他	13.9	15.0	+1.0				
資産合計	595.1	658.6	+63.4	負債・純資産合計	595.1	658.6	+63.4

- 25年3月期は、中間配当20円、期末配当は創立70周年記念配当5円を含め25円、年間配当合計45円。



1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

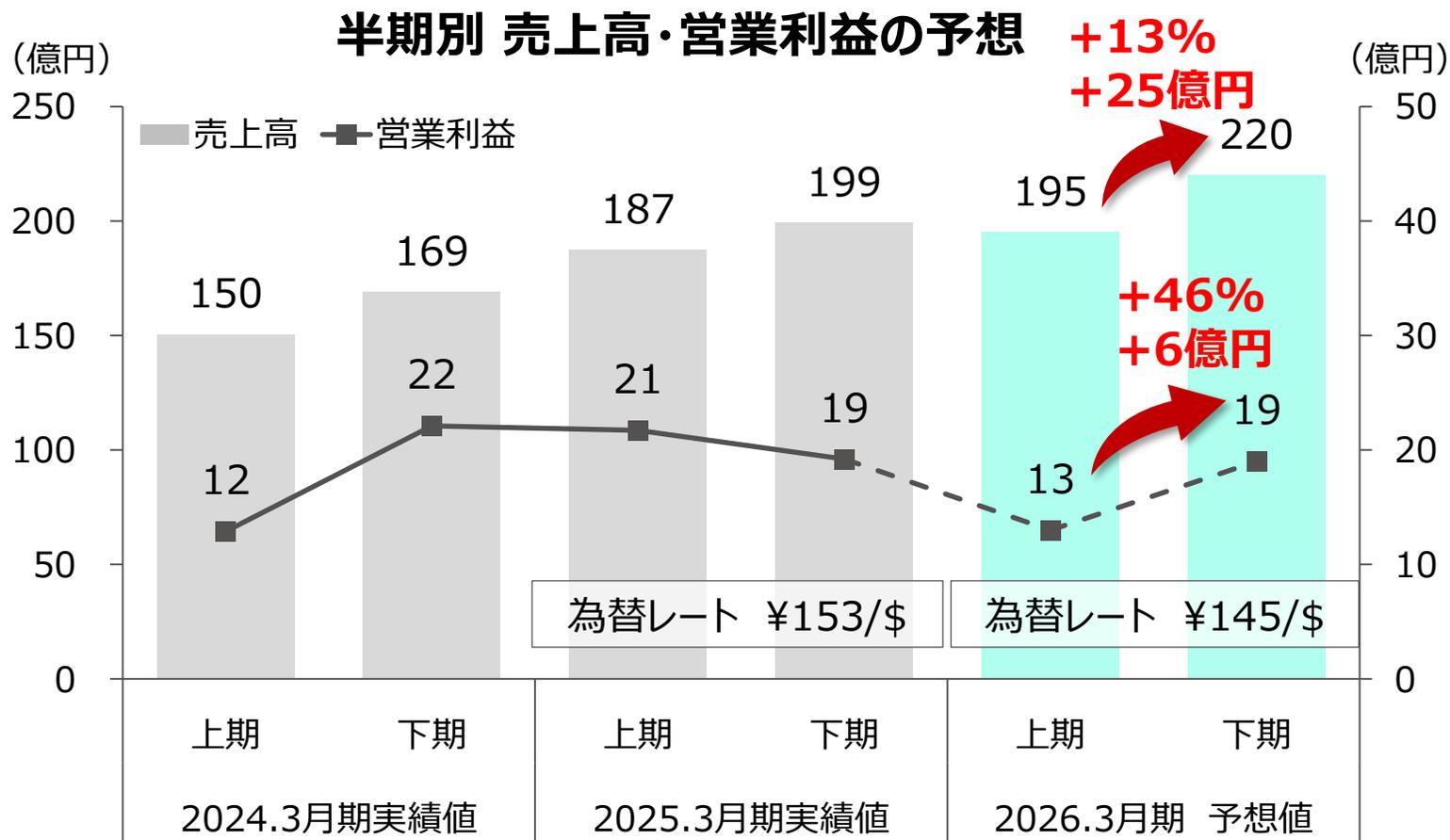
3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. サステナビリティ活動

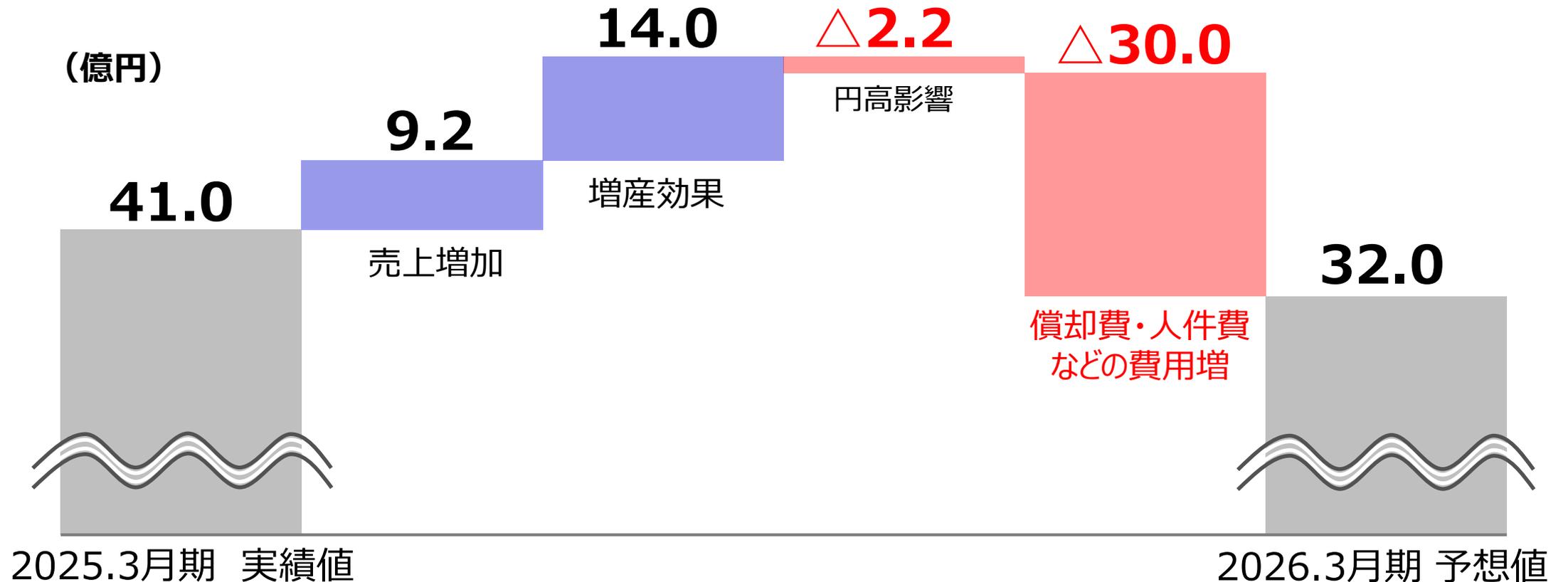
- 半導体市場は、生成AI関連需要を中心に成長が継続する見込み。
- 26年3月期の売上高は、過去最高の415億円、+28億円（+7%）を予想。
- 中期経営計画に基づく大型設備投資は25年3月期に完了。
- 大型設備の稼働開始による固定費上昇の通期影響を織り込み、営業利益32億円、当期純利益23億円を予想。

(億円)	2025.3月期 実績値	2026.3月期 業績予想値	増減額	増減率
売上高	386.6	415.0	+28.3	+7%
営業利益	41.0	32.0	△9.0	△22%
経常利益	39.9	30.0	△9.9	△25%
当期純利益	32.7	23.0	△9.7	△30%
為替レート (USD)	¥153/\$	¥145/\$		

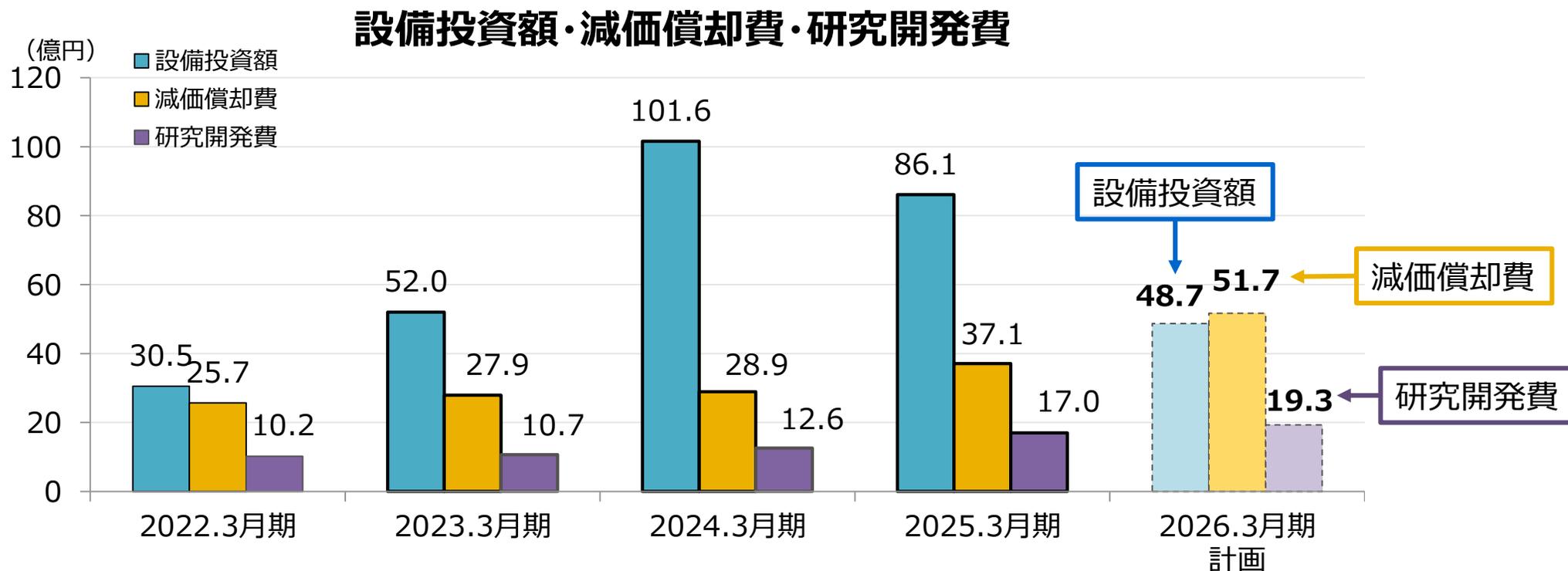
- 先端半導体向け材料を中心に売上増加が継続。
- 通期では大型設備の稼働開始による固定費上昇により減益を見込むものの、下期単独では売上増加に伴い、前年並みの利益回復を見込む。



- 減価償却費、人件費などの費用増30億円、為替影響2億円があるものの、売上増加と増産効果による利益増加要因23億円により、32億円の営業利益を見込む。



- 24年3月期：感光材開発分析棟、第4感光材工場の増床、香料工場 管理分析棟、淡路工場 屋内充填所など、101.6億円の設備投資を実施。
- 25年3月期：感光材開発分析棟（5月完成）、第4感光材工場の能力増強（9月完成）などにより86.1億円の設備投資を実施。大型投資はすべて完了。
- 26年3月期：既存設備増強などの設備投資、48.7億円（前期比△37.3億円）を計画。減価償却費は、新設備やMESの稼働開始により51.7億円を予定。





香料工場 管理分析棟完成
(2023年8月)



淡路工場 第2屋内充填所 完成
(2024年3月)



千葉工場 感光材開発分析棟 完成
(2024年5月)



千葉工場 第4感光材工場
先端品生産ライン 完成
(2024年9月)

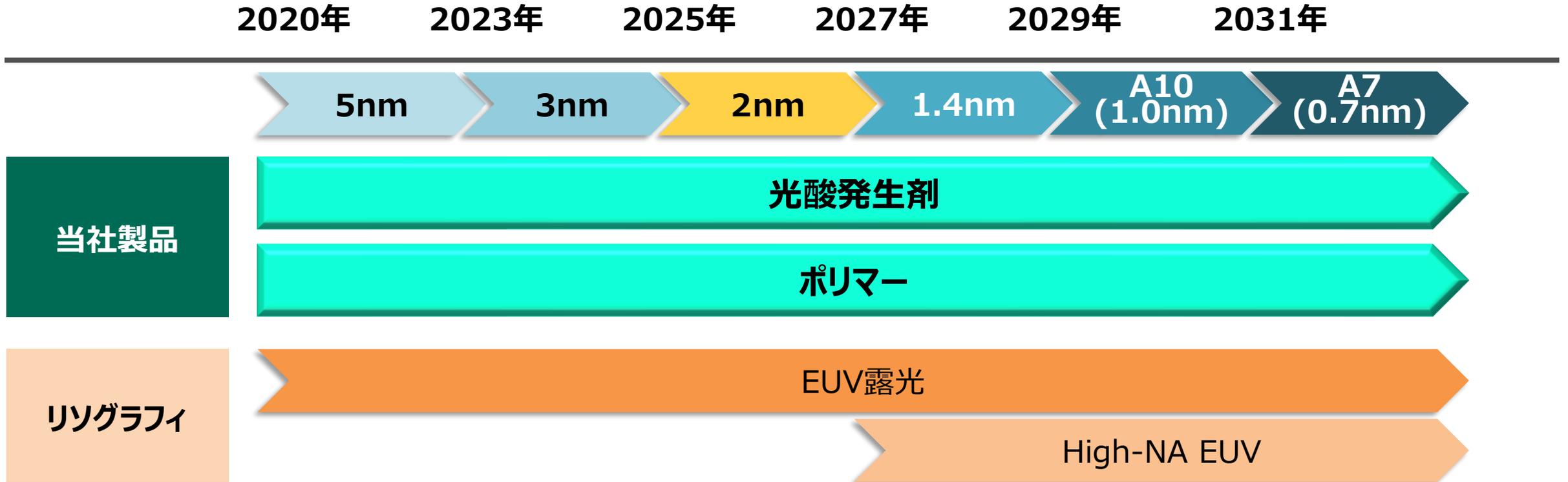
- 2023年8月
香料工場 管理分析棟 (投資額：約3億円)
分析能力・職場環境の整備・安定供給の向上
- 2024年3月
淡路工場 第2屋内充填所 (投資額：約10億円)
半導体向け溶剤、従来比約3倍の出荷能力増強
- 2024年5月
千葉工場 感光材開発分析棟 (投資額：約30億円)
研究開発、品質管理を統合し、製造技術力・分析体制を大幅強化。
- 2024年9月
千葉工場 第4感光材工場 能力増強
(投資額：約120億円)
先端品向け材料の生産能力を1.8倍※に拡大
※2022.3月期比

- 2024年9月に先端半導体（ArF、EUV）向け材料の生産ライン（第4感光材工場能力増強）が完成し、Beyond500（現中計）の大型設備投資はすべて完了。
- 26年3月期は完成した設備を最大限活用し、最先端品質を満たす安定供給体制を狙う。

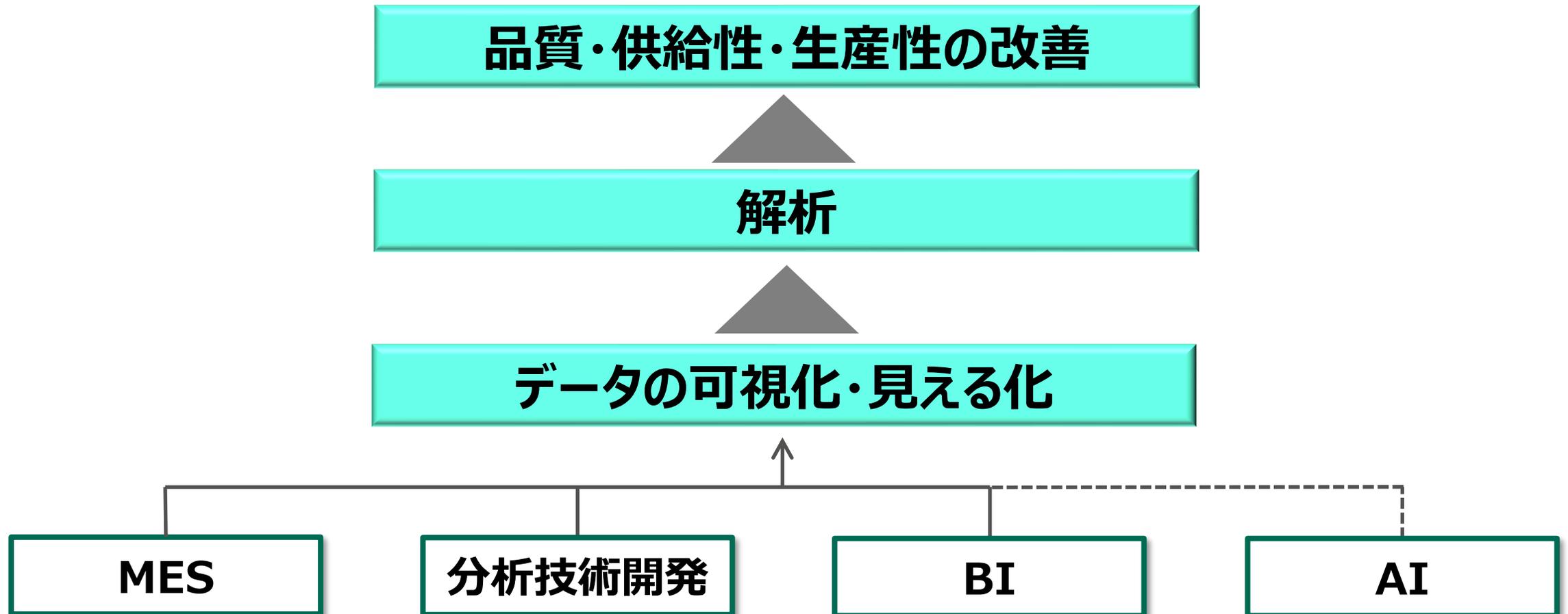


- 微細化の進展とともに光酸発生剤、ポリマー（フォトレジスト原料）の製造難易度も高度化。
- 生産能力増強に加え、製造・分析技術開発、製造データの見える化DXを進め、次世代に向けた安定品質での供給体制を目指す。

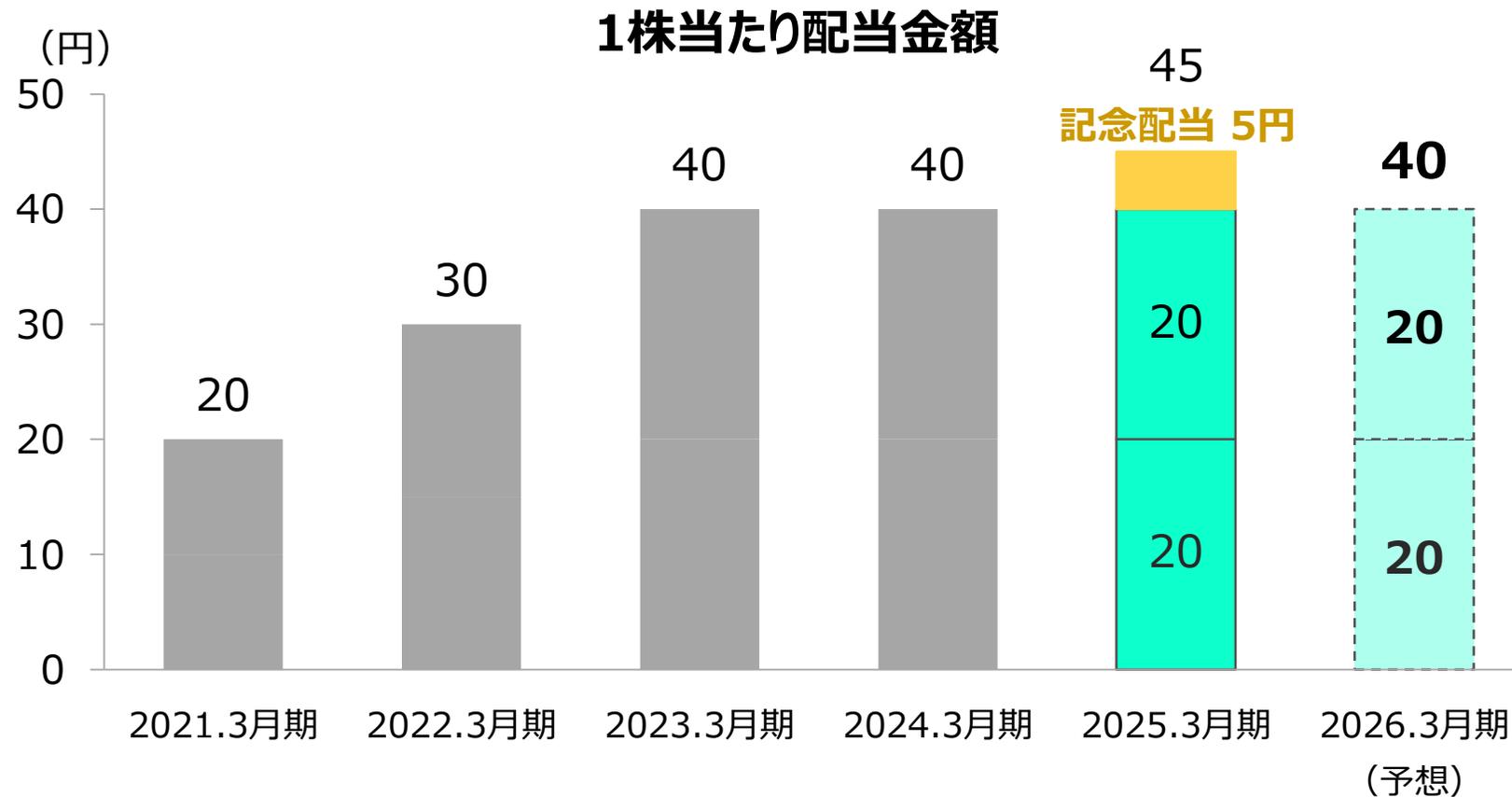
技術ロードマップ^o



- 製造データの見える化と分析技術の高度化により、製造品質改善のデータ基盤を整備。
- 各種データをBIでわかりやすく共有することで生産性改善に繋げる。



- 26年3月期は、中間、期末配当ともに20円、年間配当合計40円を予想。



1. 2025年3月期 通期 決算概要

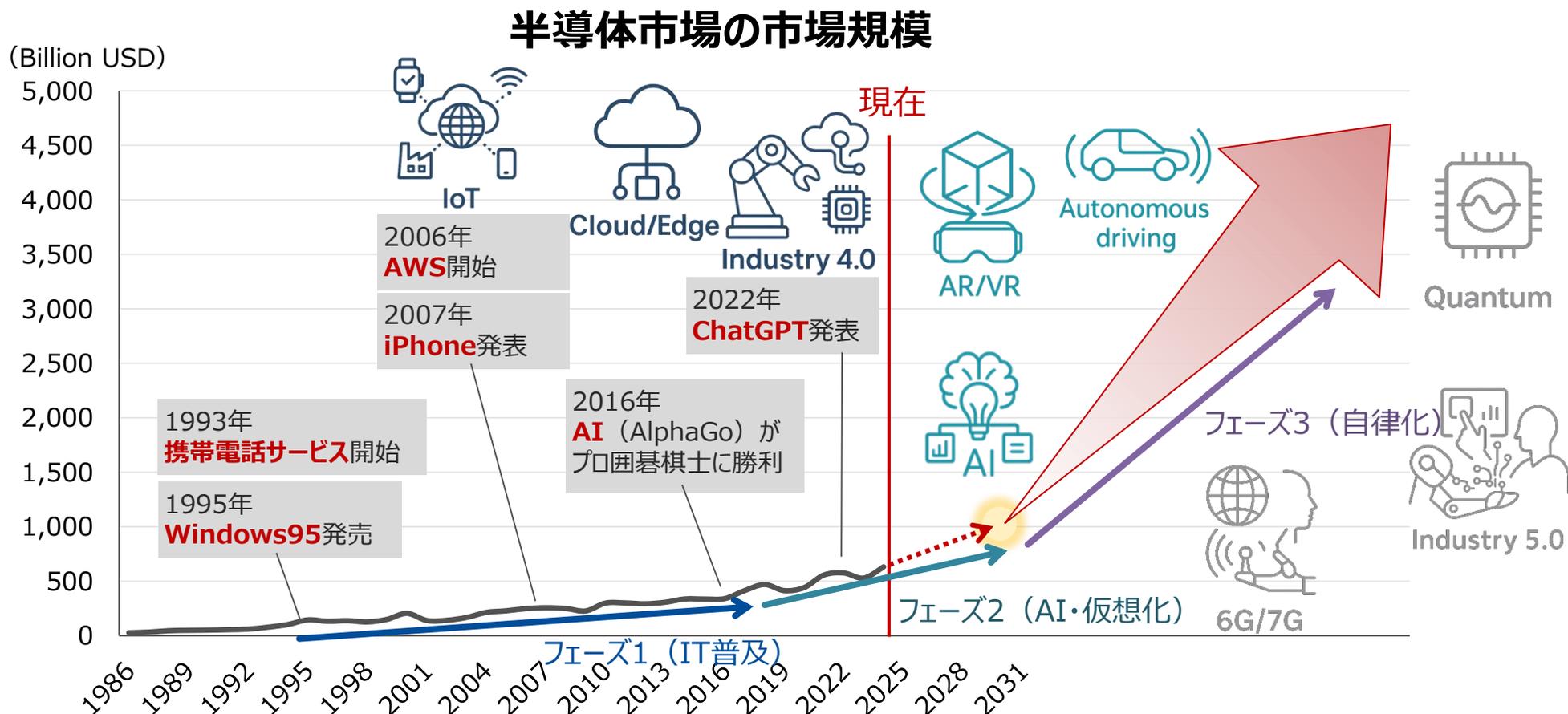
2. 2026年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. サステナビリティ活動

半導体市場の成長と今後の見通し

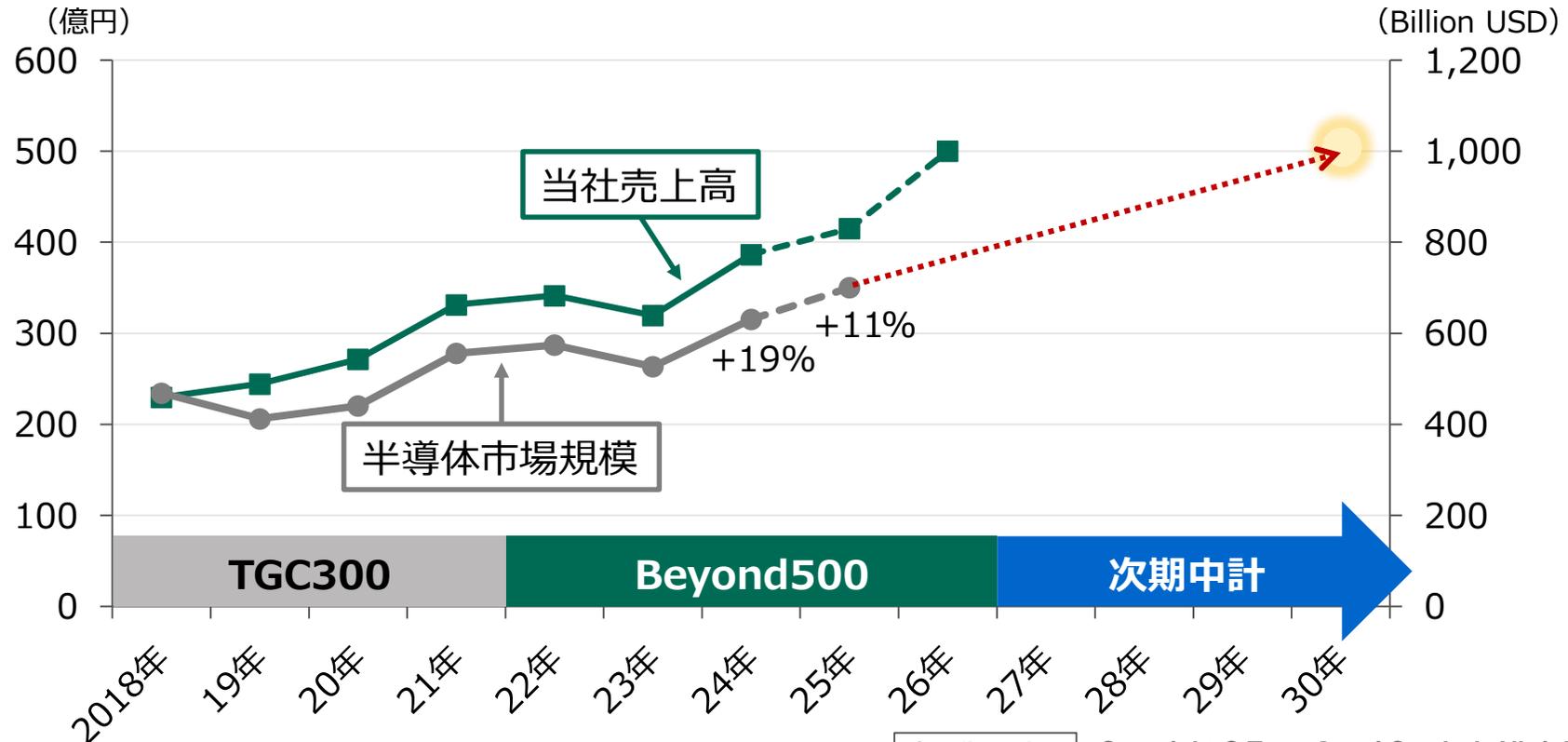
- 半導体市場は過去40年間で30倍に拡大（年平均成長率9%）。
- 今後も成長が継続し、2030年までには1兆ドル、2050年には5兆ドルに到達する見通し。



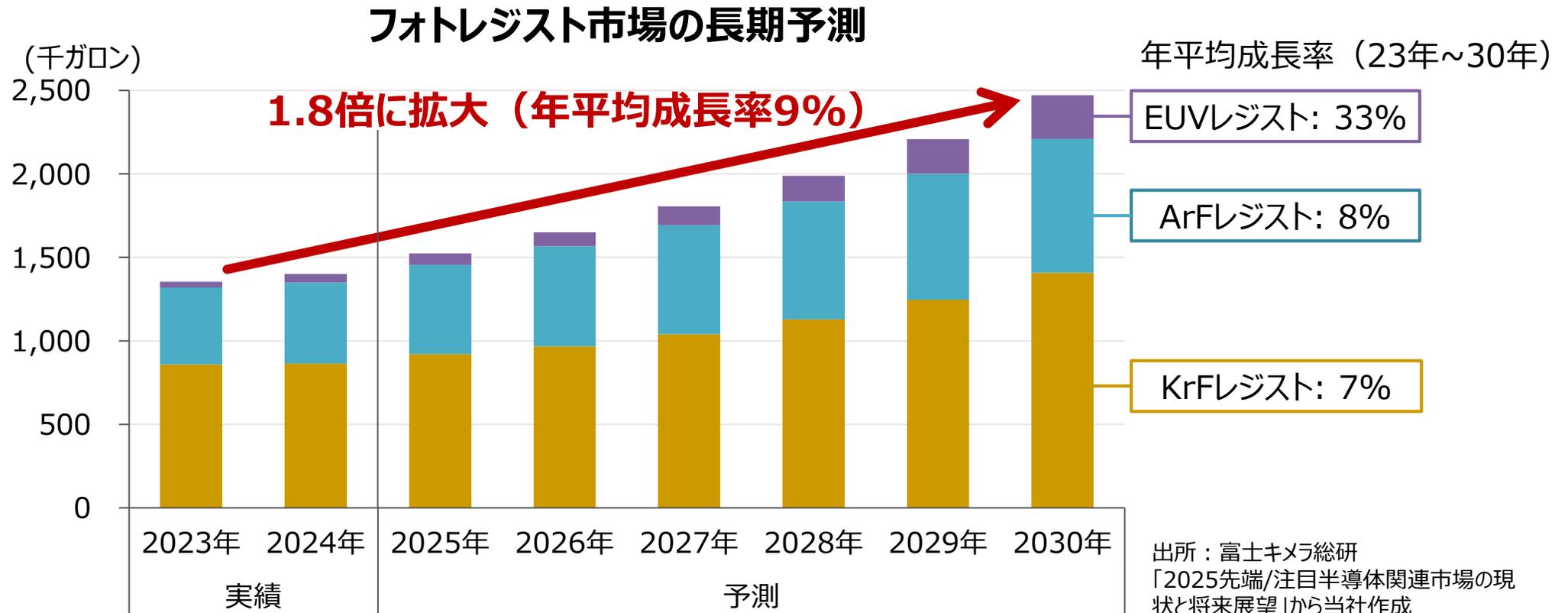
半導体市場と当社の事業成長

- 2024年は+19%、2025年は+11%成長の予測。
- 半導体市場の拡大に伴い、当社売上高は着実に成長。
- 今後も半導体の進化を支えるため、微細化や高集積化に対応する新規材料の研究開発、製造技術開発、品質管理の高度化、生産性の向上に取り組み、能力増強した設備を最大限活用し、高品質製品を安定供給。

当社売上高と半導体市場

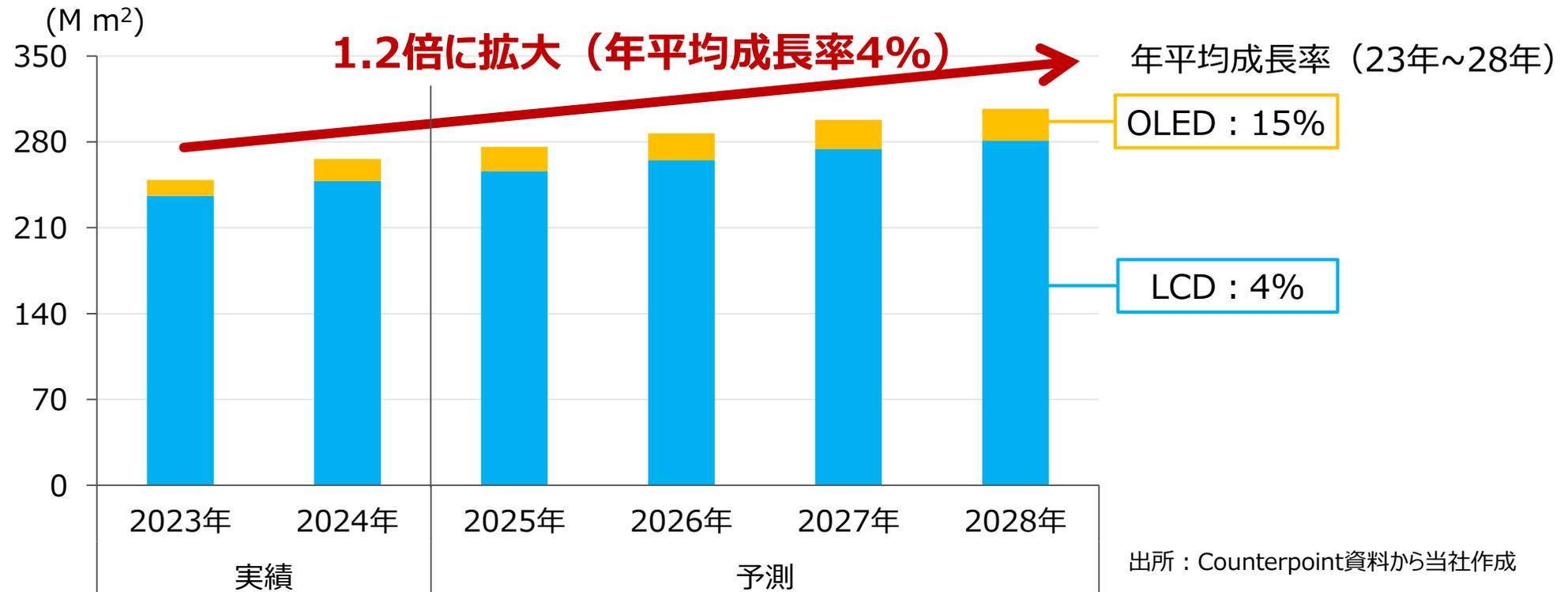


- EUV用レジストの需要量は、2023年~2030年に年平均成長率33%で7.5倍に成長。
- フォトレジスト（KrF+ArF+EUV）の需要量も2023年~2030年に1.8倍に拡大見込み。
- 千葉工場 第4感光材工場の能力増強により、当社キャパシティも1.8倍に拡大。



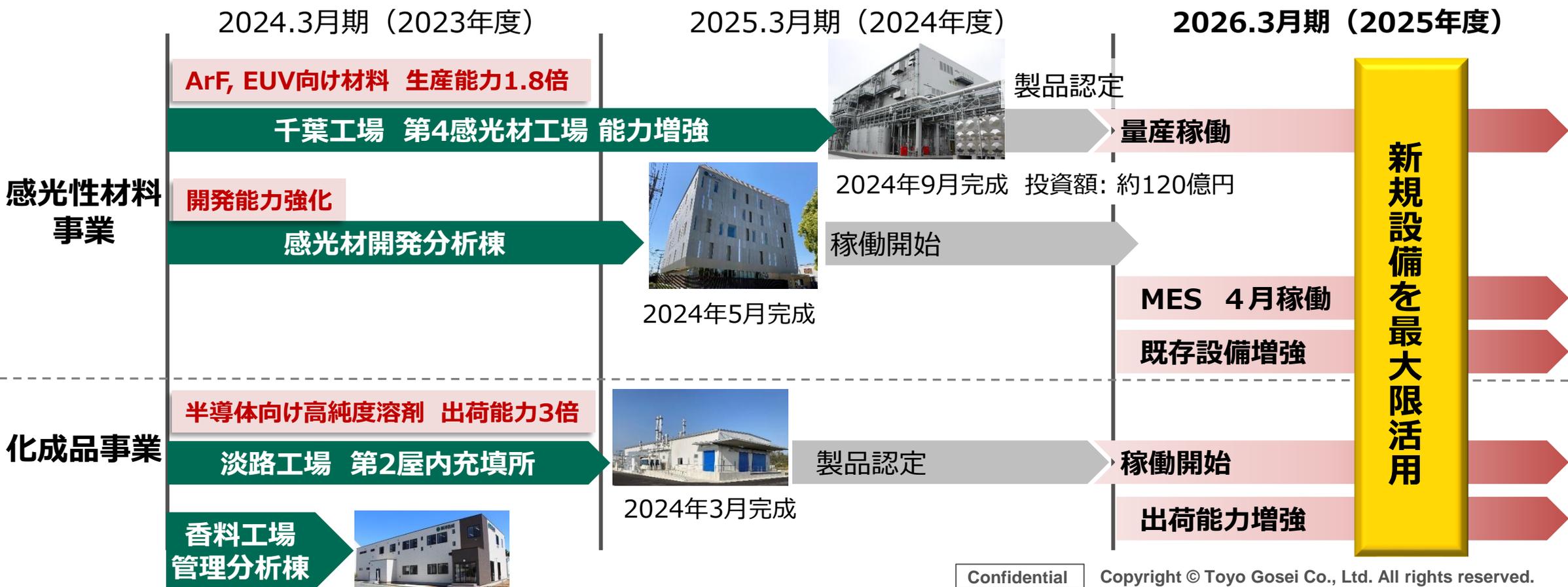
- ディスプレイ面積需要は、年平均成長率4%の緩やかな成長が継続する予測。
- 2023年～2028年にかけて、面積需要は1.2倍に拡大見込み。
- TVの大型化や高精細品普及により、感光材/高純度溶剤の需要は拡大傾向。

ディスプレイ市場の長期予測

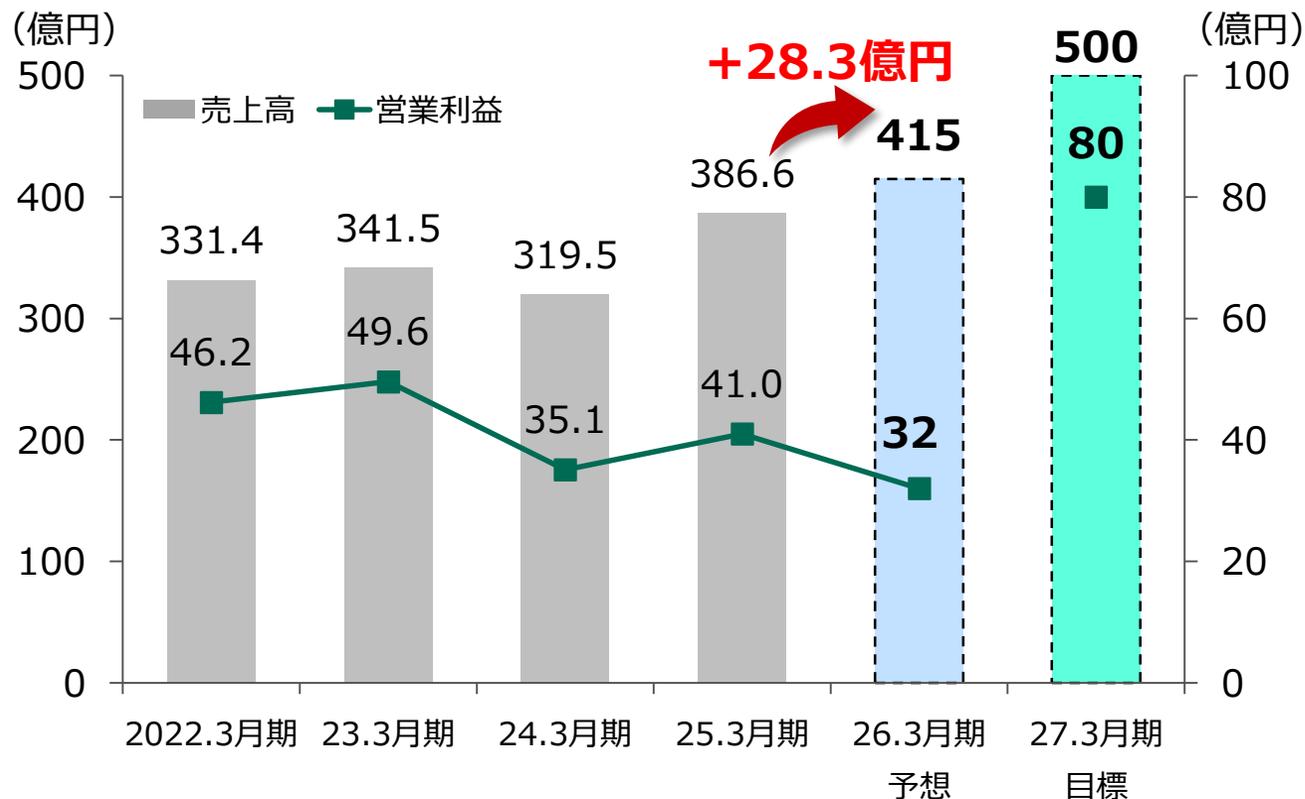
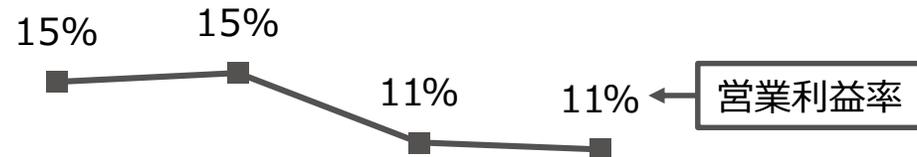


再掲) 中期経営計画「Beyond500」の大型設備投資は完了 東洋合成

- 2024年9月に先端半導体（ArF、EUV）向け材料の生産ライン（第4感光材工場能力増強）が完成し、Beyond500（現中計）の大型設備投資はすべて完了。
- 26年3月期は完成した設備を最大限活用し、最先端品質を満たす安定供給体制を狙う。



業績目標と進捗



Beyond500期間

Beyond500 (2027.3月期)

売上高：500億円

営業利益：80億円 (営業利益率16%)

- 半導体市場は中長期的な成長が継続する見込み。
- 供給拡大に向け、26年3月期から新規設備の量産稼働が開始。
- 完成した設備を最大限活用し、最先端品質を満たす安定供給体制を狙う。

今後の成長に向けた設備投資計画と助成金交付認定

- さらなる供給能力拡大に向け、2027年～2029年に設備投資を計画。
- 経済産業省の経済安全保障に基づく助成対象事業に認定（2024年11月29日）。
- 感光材・ポリマーの生産能力は、2024年度比1.4倍に拡大見込み。
- 将来の半導体需要を見据え、現中計以降も生産キャパシティを確保し、市場成長を支える最先端品質製品の安定供給を狙う。

供給確保計画（助成対象）の概要

	生産場所	供給開始 (予定)	生産能力（予定）	投資額 (予定)
感光性材料 セグメント	千葉工場	2029年4月～	感光材・ポリマーの生産能力を2024年度比1.4倍に拡大	約211億円
化成品セグメント	市川工場	2027年9月～	感光材・ポリマーの安定供給体制を構築するために、高純度溶剤の生産能力を強化	最大助成額 約70億円
	淡路工場			



千葉工場



市川工場



淡路工場

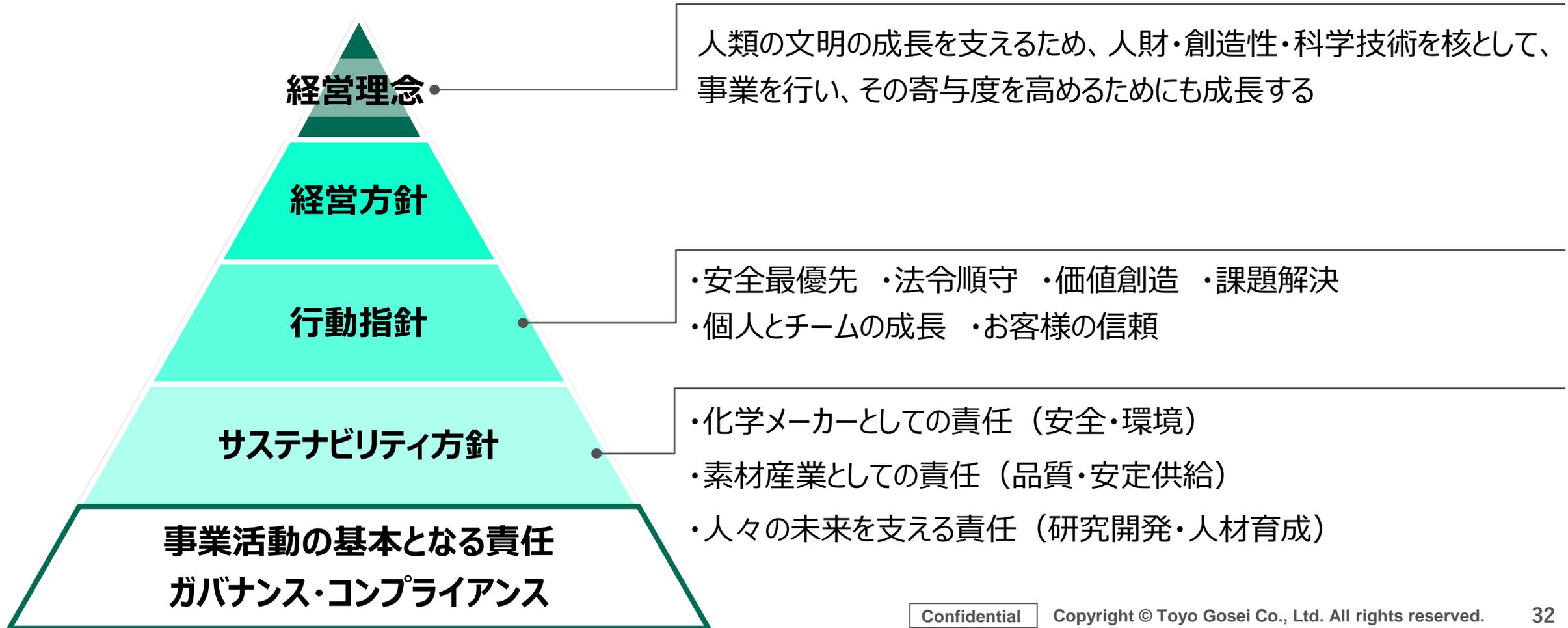
1. 2025年3月期 通期 決算概要

2. 2026年3月期 通期 業績予想

3. 今後の展望と中期経営計画の進捗

4. サステナビリティ活動

- 東洋合成は、経営理念である、「人類の文明の成長を支えるため、人財・創造性・科学技術を核として、事業を行い、その寄与度を高めるためにも成長する」ことを基本に、その実行を通じて持続可能な社会への貢献を目指しています。



環境：地球環境や社会の持続的成長の観点から、事業活動に伴う温室効果ガスや環境影響の低減を推進。

人的資本：多様性を許容する働きやすい環境を整備し、人材育成を通して、事業成長を支える組織づくりを促進。

取り組み内容

気候変動・環境影響

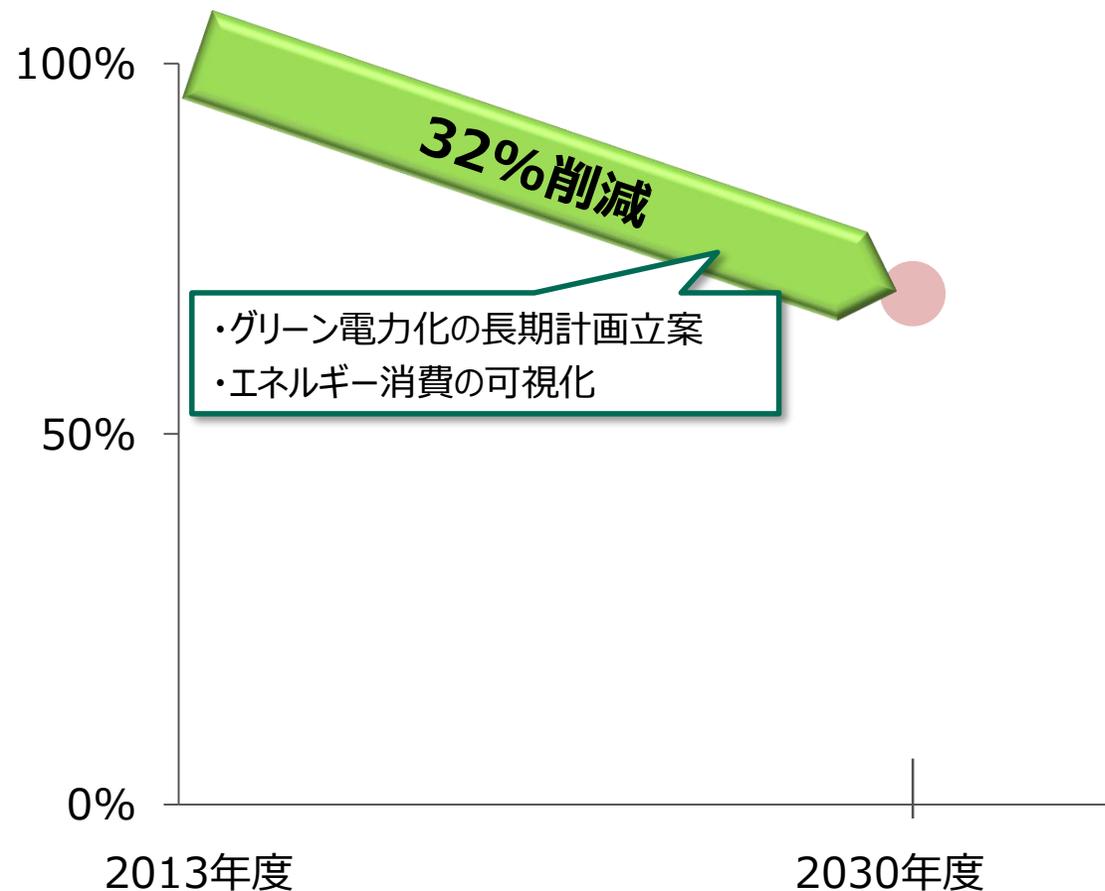
- 目標達成に向け、「ロードマップ」や「アクションプラン」を策定
- ① Scope1+2の目標を開示、Scope3の算定
- ② 消費エネルギーの可視化とエネルギー消費の最適化
- ③ 製品のカーボンフットプリント算定に向け、算定のシステム化を実施。
- ④ 廃棄物削減、溶剤リサイクルによる再資源化を推進

人的資本の充実

- 自律的に意思決定できる人材と組織
- 価値観や経験の違いを活かす企業文化
- 個人成長が、チームの成長に繋がる組織マネジメント
- 本音のコミュニケーションと個性を尊重する人材育成

- 目標の実現に向け、各施策を実施。

温室効果ガス削減目標



目標

Scope1+2 : 2030年度までに32%削減 (2013年度比)

省エネ対応 : エネルギーは生産当たり、毎年1%削減

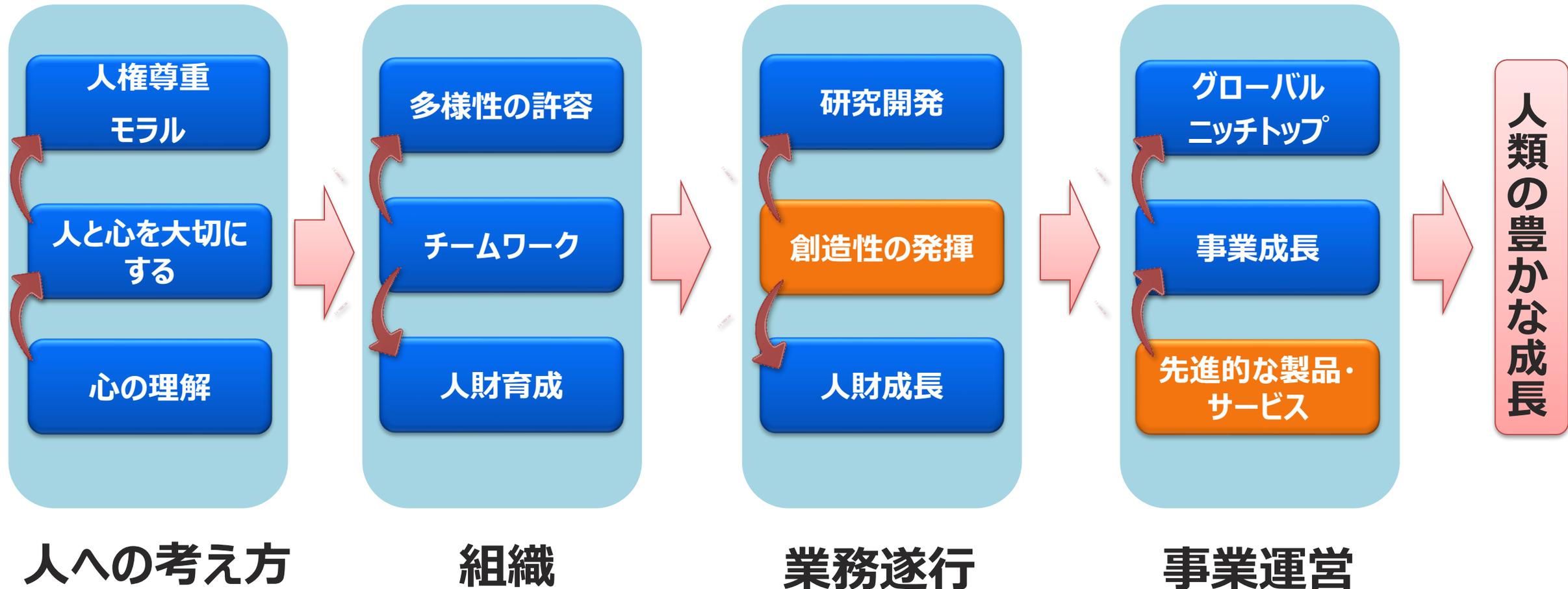
これまでの活動内容

- 効果的な省エネ施策と効果測定に向け、装置ごとのエネルギー消費の可視化。ロードマップを策定。
- 淡路工場では、太陽光に加え、グリーン電力使用比率を50%まで向上。



淡路工場のグリーン電力（太陽光パネル）設備

- 人の心への理解を深め、心理的安全性を高め、価値観やバックグラウンドの多様性が許容されるチームを醸成。
- 創造性が発揮され、持続的な人材成長と事業成長に繋げることができる組織を目指す。



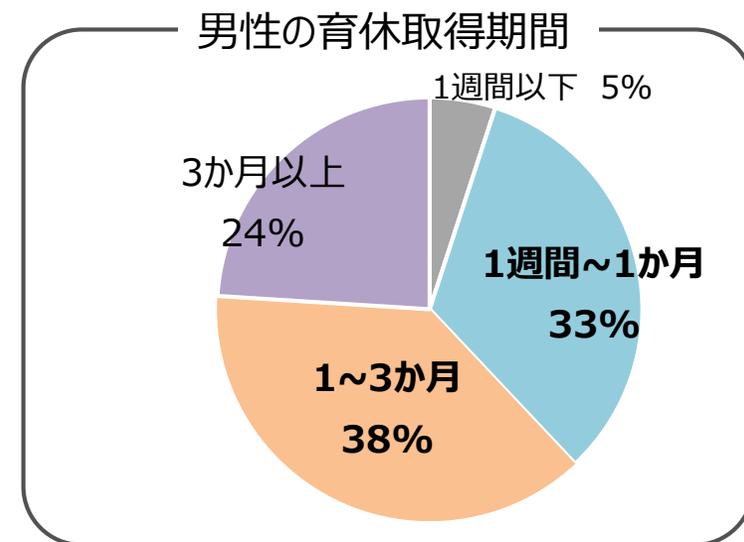
■ 人権、コンプライアンス研修

全役員・従業員を対象に、人を敬い尊重する「人権」への正しい認識を深めるため、ロールプレイの実践型研修により、人の様々な気持ちを体感する研修を実施。



■ ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン

- 全社体制整備とともに、子育てシェア会、介護セミナーなどの社内研修やセミナーを開催。
- 男性社員の育児休業取得率は80.8%に向上（前期比+23.1pt）



■ 健康経営

ウェルビーイングの一環として、健康経営優良法人2025（大規模法人部門）に2年連続認定



- 一人ひとりの個性を尊重し人を大切にする、安心安全なやりがいのある職場づくりを推進。

■ 安全文化醸成ワークショップ、チームビルディング

「実感できる安全、自分ごととして捉える文化」の実現に向け、全工場で開催。
安全文化醸成、人材育成、組織開発の基盤として実施中。

関係性の構築
(本音での対話)



チームワーク強化
(真の課題解決)



人材育成
(未来への組織成長)

■ 職場環境の向上

開発分析棟 (24年5月完成) に開発部門が集結し、
知の共創環境を整備。

■ 社員エンゲージメント

家族参加で創立70周年感謝祭を事業所毎に開催、
成長の歴史振り返り、今後の成長に向けた一体感を醸成。

■ エンゲージメントサーベイ

毎年の定点観測により、マネジメントを改善。



70周年
過去10年の成長の軌跡



70周年
事業所イベント

- 個人の成長、チームワークによって、成長する組織を目指し、各種施策を展開。

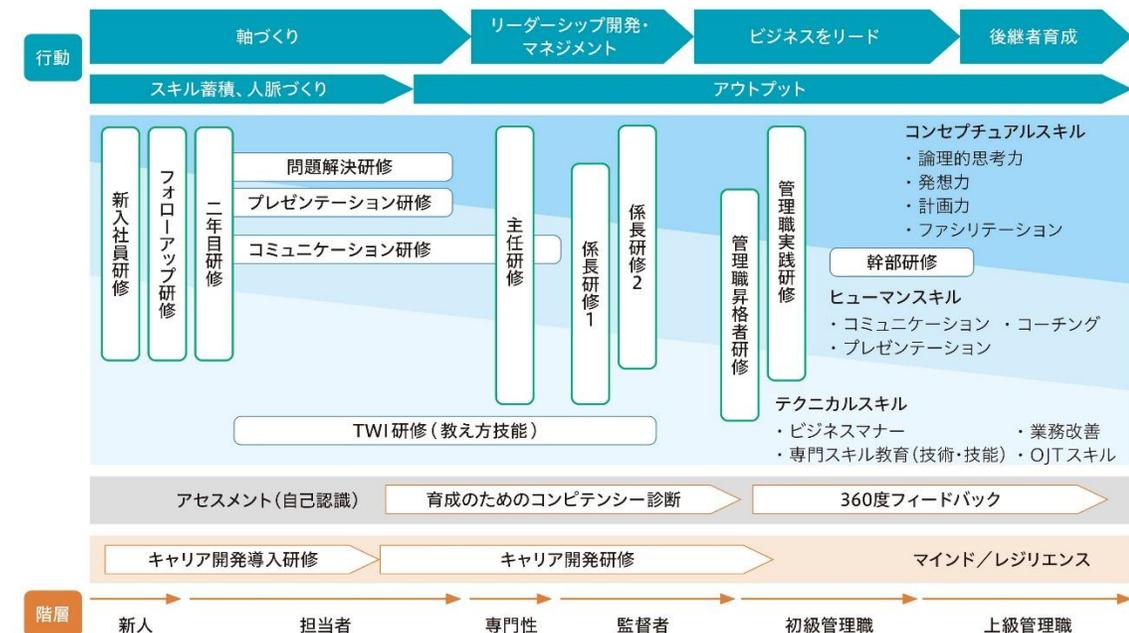
■ キャリア開発

- キャリアを考える機会を定期的につくり、自分の個性と強みを活かす自己啓発を支援。
- 一人ひとりの自律的な学びとキャリア自律のために、Will・Can・Mustを活用したキャリア研修を実施。

■ 長期の成長支援

- 新入社員から上級管理職に至るまで、各段階で必要なスキルを定め、学習・経験する機会を提供。
- 企業成長に併せ、研修を拡充し、勤続年数に関わらず、役割に必要なマネジメント研修を実施。

研修体系図



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical



東洋合成工業株式会社